

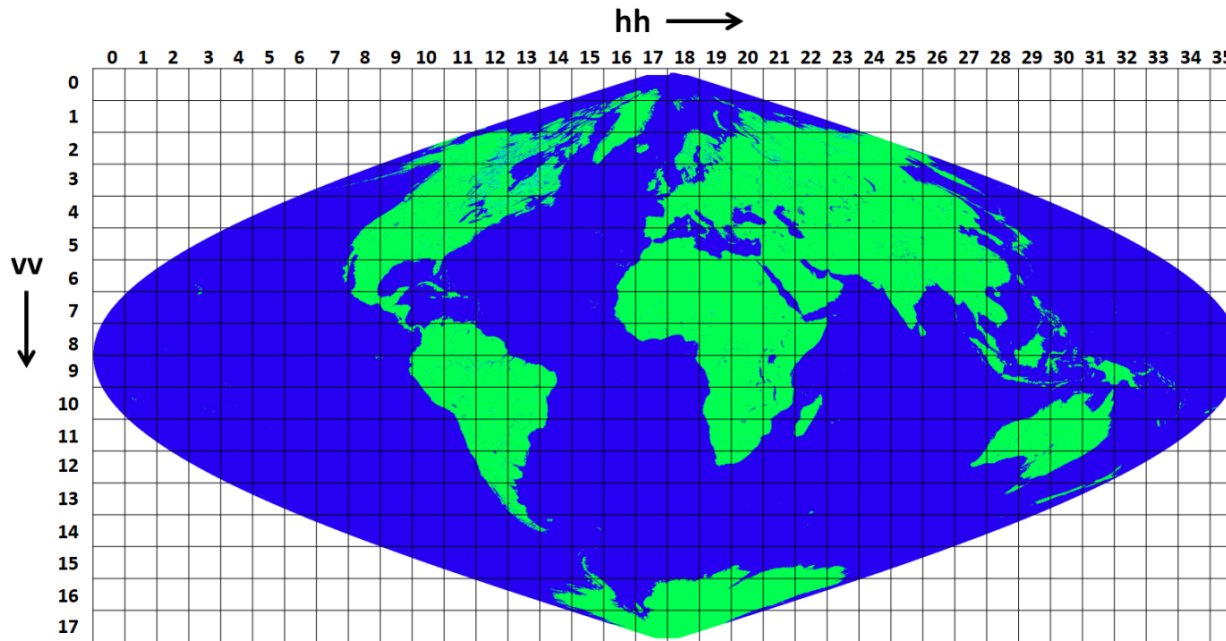
タイルプロダクトについて

✓ タイルプロダクト定義について

- タイルとはEQA(sinusoidal equal area)図法で定義され、領域毎に切られた単位です。
- 図に示すように領域は緯度方向(vv)に18領域、経度方向(hh)に36領域に分けられ、ファイル名ではvvhhで表現されます。例えば関東を含む領域のタイル番号は0529に該当します。

ID	SceneID																			ProductID																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
GID	G	C	1	S	G	1	_	Y	Y	Y	Y	M	M	D	D	m	t	t	t	_	g	v	v	h	h	_	L	L	x1	x2	_	K	K	K	K	r	_	a	p	p	p
設定例	G	C	1	S	G	1	_	2	0	2	0	0	8	0	1	D	0	1	D	_	T	0	5	2	9	_	L	2	S	G	_	C	L	F	G	Q	_	1	0	0	1

* グラニューールID詳細は気候変動観測衛星「しきさい」(GC0M-C)データ利用ハンドブック参照



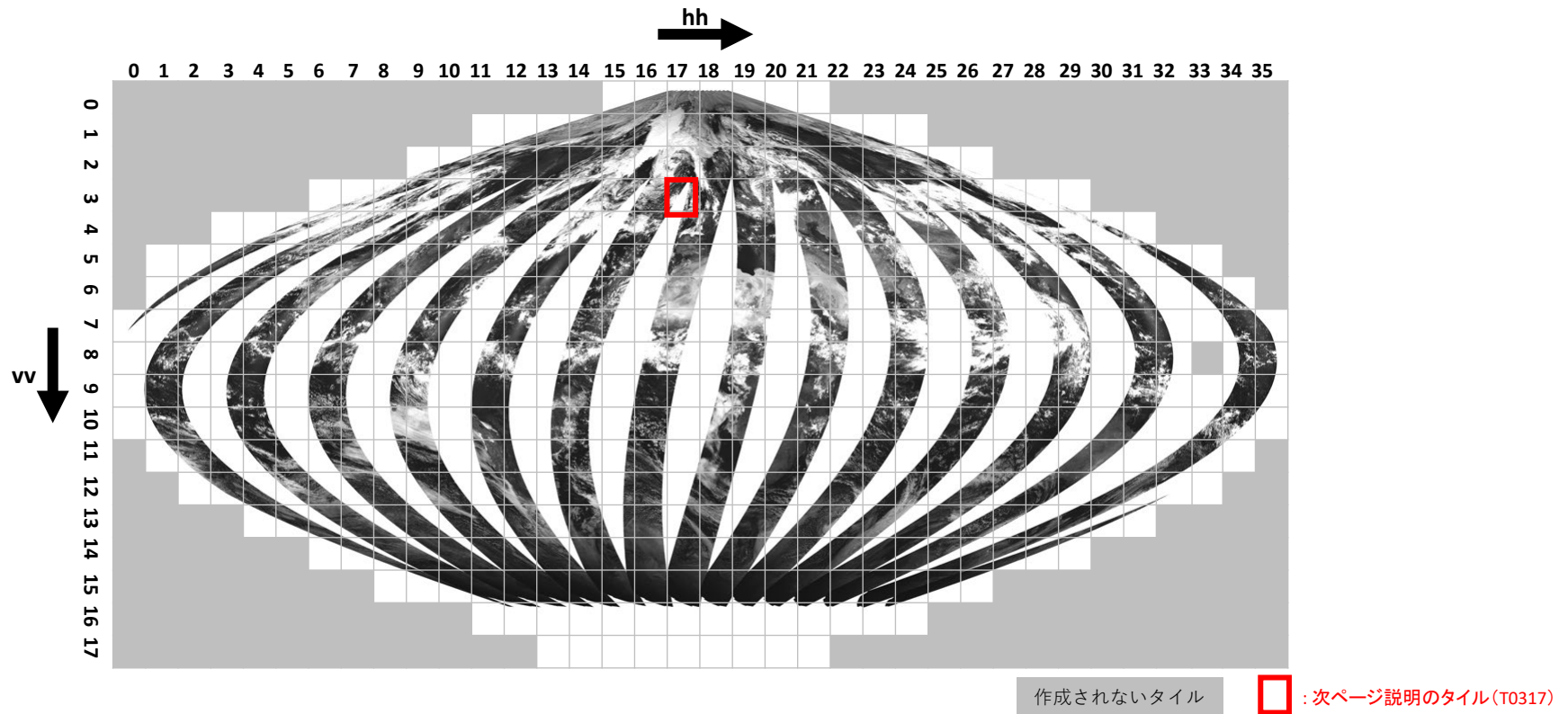
- 1タイルの画素列は250m分解能では4800x4800、1km分解能では1200x1200になります。
- L2の一部(陸圏・大気圏・雪氷圏)はタイルプロダクトになります。

タイルプロダクトについて

✓ 標準プロダクトで作成されるタイル数

- 標準プロダクトでは1日毎に観測域に該当するタイルが作成されます。そのため、赤道に近いタイルでは作成されないケースや、校正運用などにより作成されないケースがあり、日によって作成される総タイル数は異なります。

□ 2020/8/1に作成される1kmタイル(ディセンディング)



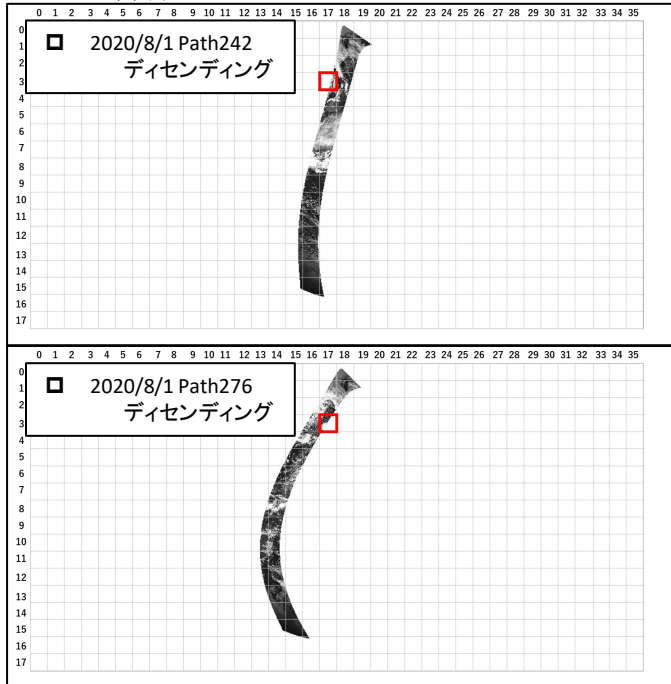
タイルプロダクトについて

✓ 準リアルプロダクト(SN)と標準プロダクト(SG)の違い

- 準リアルプロダクトは観測から待ち合わせることなく、上流プロダクトとなるシーン単位で処理を行い提供するため、複数ファイルが作成されます。そのためファイル名には整数3桁のシーケンス番号 (_nnn) が付加され「グラニュールID_nnn.h5」となります。
- 標準プロダクトは1日分を待ち合わせて作成されるため、タイル毎にモザイクされ1ファイルのみ作成されます。そのため、ファイル名にシーケンス番号はつきません。

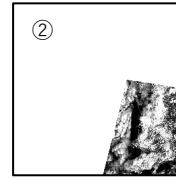
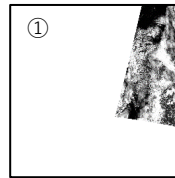
➤ 衛星軌道

- タイル番号T0317(赤枠)を例にすると、2020/8/1は2回撮像されている



➤ 作成される準リアルプロダクト(T0317)

- 複数ファイルに分かれて作成される



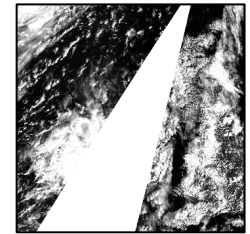
シーケンス番号

- ①GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SN_LTOAK_2002_000.h5
- ②GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SN_LTOAK_2002_001.h5

準リアルプロダクトの識別

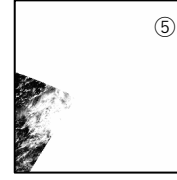
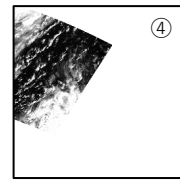
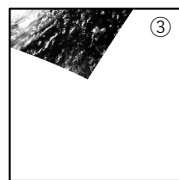
➤ 作成される標準プロダクト(T0317)

- モザイクされて1ファイルのみ作成される



GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SG_LTOAK_2002.h5

標準プロダクトの識別



- ③GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SN_LTOAK_2002_002.h5
- ④GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SN_LTOAK_2002_003.h5
- ⑤GC1SG1_20200801D01D_T0317_L2SN_LTOAK_2002_004.h5